

## 6.5 教育の質の向上

### 進捗状況報告

2006年度に教育体制およびカリキュラムの全面的な改定を行い、あわせて「課題研究」の整理・統廃合およびテーマの再設定・教員の再配置を行った。総合政策研究科では設立時から詳細なシラバスを作成しており、たとえば2007年度春学期のシラバスは74ページと充実している。大学院生による授業評価、とりわけ少人数クラスでの授業評価の方法について総合政策研究科でも鋭意検討を継続している。なお、関西学院大学大学院教務学生委員会において2007年度に「学生による授業に関するアンケート」を実施する計画である。

### 学内第三者評価

研究科において充実したシラバスが従前から作成されていることは優れた取り組みである。  
2003年度に設定した目標のうち「少人数クラスの授業評価の必要性とその方法の検討」については、大学院全体の取組の中で実施しようとしていることは一歩前進である。  
しかし、本学は2006年度の認証評価において助言として「各研究科では、これまでFD活動に組織的に取り組んできたとは言えない。しかし、2006（平成18）年度に、『大学院ファカルティ・デベロップメント部会』が設置され全学的検討が開始されたところなので、今後の活動が期待される」と全学的な指摘を受けており、2010年度には改善報告書の提出が求められている。加えて、2007年度の大学院設置基準の改正により、大学院においてFDが義務化された。授業改善への組織的な取り組みは2007年度の最重要課題として取り組むことが強く求められる。

なお、特別委員から以下の意見があった。  
・2006年度に教育体制およびカリキュラムの全面的な改定が行われたので、今後の展開に注目したい。また、大学院でのシラバス作成が困難視されることの多いなかで、充実したシラバスを有していることは評価に値する。